

富山新聞

2017年(平成29年)9月27日(水曜日)

国産初のジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)や、米ボーイング社向けの航空機部品を生産する。石金精機が自社工場の柱に据える分野である。

MRJの部品納入

MRJ向けに納入する主翼部品は、離着陸時に可動する部位を構成しているため、航空機で使われることが多い軽量のアルミでなく、耐摩耗性の高い金属を使用している。熱処理後に硬くなった金属を削るという高度な加工技術を駆使することで、厳しい航空機の品質試験をパスした。

ボーイング787向けの航空機部品も含め、製造工場では、特殊な工作機械を使用していない。金属の切削や研削、組み立ての各部門に配置されたベテラン技能者が、汎用的な機械を高いレベルで使いこなす。

「金属を削り、さまざまなたちに変える。あの業界が今、忙しそうだな」と思えば、対応

ほくりく最前線

石金精機



する金属部品を柔軟に製造できる技術がうちの強みです。清水克洋社長は変幻自在の金属加工が武器だと強調する。

航空機分野では今後、米国内で試験飛行中のMRJが商業ベースで生産される。原油安で停滞傾向にある低燃費航空機の更新

需要が回復すれば、部品の需要はさらに拡大すると見込む。

航空機と同じく、医薬機器事業にも力を入れる。「富山は医薬品事業が集積しているが、薬そのものを製造する設備を手掛ける会社は少ない」と清水社長は指摘する。医薬品生産

さまざまな機械の部品を製造する石金精機の工場
富山市の本社

変幻自在の金属加工

北陸経済

金額で全国トップとなった地元需要を取り込む狙いだ。

他社との連携視野

例えば製造機械のメンテナンスでは、県外企業に発注するより、地元企業が駆け付けて対応したほうが早い。既に健康食品メーカーで使用される製造機器のオーバーホールや、別の医薬品メーカーからは搬送工程の消耗部品の取り換えで受注を得た。将来的には他メーカーとの連携を視野に、医薬品製造装置の開発を図る。

航空機、医薬機器に加え、精密部品の「設計製作」と「試作品」を新規事業の4本柱に掲げる。100周年まであと34年。現在の主力である工作機械向けの部品だけでは、勝ち残っていかない」と清水社長。節目の年を目指し、金属だけでなく、会社の姿も時代のニーズに合わせて柔軟に変えていく。

石金精機(富山市) 精密機械部品の設計・製造・試作。1951(昭和26)年創業。資本金3千万円。2016年9月期の売上高は10億3500万円。

◇毎週火、水曜日に掲載します。